



講座の看板を掲げる雪印メグミルクの佐藤代表取締役社長（左から2人目）と福田学長（同3人目）ら（同社提供）

# 弘大、雪印と研究講座

## 「ミルク栄養学」を開設

弘前大学 福田眞作学長と雪印メグミルク（東京都、佐藤雅俊代表取締役社長）は、弘大が18年間追跡している岩木健康増進プロジェクトの健康ビッグデータを活用して、牛乳の摂取量と

全身の健康との関係を探求する共同研究に乗り出した。1日付で共同研究講座「ミルク栄養学研究講座」を弘前大学大学院医学研究科内に開設し、12日、同社で開設式を実施。両者は研究を

通じて牛乳の新たな価値を創造することで社会貢献を目指す。講座には同社の研究員2人が所属し、研究部門の役割を7人が関与する。研究期間は3年間で、主に弘大

が実施する通称「岩木プロジェクト健康」の約3000項目に上る医療健康ビッグデータの解析研究をリポートで行う。

同社の担当者は「ビッグデータ解析により、乳製品摂取と健康状態の関係を明らかにし、雪印メグミルクが強みとする骨や乳酸菌などの深耕に加え、ミルクの新たな健康価値を研究する。世界中の誰もはまだ知らない神秘的な機能の解明に期待している」とコメント。

同プロジェクトを先導してきた弘前大学大学院医学研究科の中路重之特任教授は「健康とは複雑でさまざまなものが絡み合っており立っている」とした上で「牛乳の摂取量と体力や免疫力、メタボ、脳などいろいろな場所との関係を探求する。牛乳や乳製品、骨密度、腸内細菌といったキーワードの下、健康に対する牛乳の可能性を広げたい」と期待を込めた。（石田紅子）